

北九州市立病院機構 第8回理事会議事録

- 1 日 時** 令和3年6月29日(火) 15:00～
- 2 会 場** 機構本部内会議室（北九州市立商工貿易会館3階）
- 3 出席者** 中西理事長、武田副理事長、中野理事、伊藤理事、松本理事
（オブザーバー）中野監事、和唐監事、江淵保健福祉局健康医療部長
- 4 議 案** (1) 令和2年度 決算について
(2) 令和2年度 業務実績報告書について
(3) 経営再建方針について
(4) 医療センターの老朽化対策について
(5) 職員給与規程の改正について
- 5 報告事項** (1) 北九州市立病院機構における新型コロナへの対応について
(2) 病床機能再編支援事業申請について

6 議事要旨

- 議案1 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。
- 議案2 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。
- 議案3 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。
- 議案4 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。
- 議案5 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。

7 質疑応答要旨

○議案1

（松本理事） 2病院が患者の受入れに貢献した結果として補助金等が増えたと思うが、収入に占める補助金の割合はどの程度だったか。

（事務局） 国の補助金等が51.5億円、市からの運営費負担金の追加の交付分が11.4億円となっている。

（中野監事） 補助金や市からの交付金で、黒字となったが、皆が努力した結果だと考えている。

（和唐監事） こういう状況下のため、医業収益が厳しいのはやむを得ないが、皆さんの地域医療への貢献の部分が認められた結果が、補助金として表れていると考えれば、決算としては妥当な数字だと思う。経営戦略チームやコンサルティ

ングの導入により、令和2年度の下半期は19億円改善しており、来年度以降も改善が得られることを考えれば、すごく良い状況になっていると思う。

○議案 3

(中西議長) 危機感を抱いて経営を行うため「改善」ではなく、「再建」という言葉を使っている。数値化した目標を掲げて経営再建を進めていく。経営コンサルタントについても、今後の増収に向けて継続支援をお願いしている。

○議案 4

(松本理事) 医療センターが担う政策医療として感染症と周産期医療の他に、がんセンターは入っていないのか。

(事務局) 政策医療は市から運営費負担金を頂いているものとして整理しており、がんセンターは入っていない。運営費負担金は出していないが、年度計画上、医療センターの役割として、がん診療を行うことをしっかり言及している。

(中西議長) 国の方針では、公的病院の機能としてがんセンターの高度医療を維持すべきとしているが、運営費負担金は頂いていないというのが現状である。機構としては、経営をしっかりと行ったうえで、医療センターの建て替えもしくはリニューアルを強く切望しているが、安全面と機能面を維持するために6年間で約11億円の補修、改修も必要であり、無駄にならないように効率的に実施したい。

○報告事項 1

(松本理事) 慰労金の支給は賛成であるが、直接コロナ医療に関わった方には別のものがあるのか。

(事務局) コロナ医療に関わった職員には、別途、手当が支払われている。

(中西議長) コロナ医療には人的資源が必要であり、結果として、他の現場においても人員不足によるストレスや心的疲労が生じているため、コロナ医療に関わっていない職員にも慰労金を支給することとした。

○報告事項 2

(中西議長) 病床機能再編支援事業の件は機構の将来像にも関わることである。残念ながら将来的に人口が減っていくことは間違いない。公的病院として、周辺医療機関と調整を図りつつ、ある程度コンパクトにしながらベッド回転率を上げることで、DPCの増収と業務効率化を図ることができる。将来の経営体制を強化するために、第一段階として、国の支援を頂きつつ現在の病床数を見直すことは、問題ないと思っている。

以上